

多摩川の干潟は、生き物の宝庫 ～もんぜん大好き～

川崎市立東門前小学校

1. 実践の内容

本校は、東側には産業道路、西側に川崎大師、北側には何棟ものマンションが立ち並び、決して自然に恵まれた地域とはいえない。しかし、わずか歩いて10分のところに多摩川が位置し、多摩川を題材にした取組が、全学年を通して行われている。

特に、3年生では「総合的な学習の時間」で、年間を通して繰り返し干潟に足を運び、何種類もの生き物を観察したり、教室で飼育したりして、生き物の生態や干潟の役割を学んでいる。

また、5年生では環境に目を向け、水質調査をしたり、他の生き物との共存の様子を調べたり、多摩川を守る地域の人などに目を向けたりしながら、自分の課題にそって学習を進めている。



2. 実践の成果

絶滅危惧種のトビハゼ、数種類のカニやエビなど、干潟で暮らす多くの生き物の生態を知る中で、自分たちの地域には素晴らしい自然があることを実感している。そして、その自然を守っている方々と触れ合い、その方たちの熱い思いを知る中で、自分ができることは何かを考え、実践している。



3. 実践のポイント

多摩川に親しみ、多摩川を愛する地域の方々と直接触れ合うことで、多摩川のよさを実感し、自分の住む地域を愛する子どもを育てることにつながる。学習を進めるうえで、多摩川の自然環境保全に取り組んでいる方など、多方面からゲストティーチャーを招いている。

また、全学年で多摩川を題材にしたさまざまな角度からの学習を行うことによって、身近な多摩川への意識を高めることになっている。

